

命に国境はない

福島とイラクの今を語る

2011年 11月12日(土) 18:30~

お 話： 高遠 菜穂子 さん

場 所： 三鷹市市民協働センター 第1会議室
(JR三鷹駅南口徒歩約15分 TEL:0422-46-0048)

参加費： 800円

大義なき攻撃でイラクにもたらされた破壊と死。残された人々はこれまでにないほどの苦境におかれている。この遠い国の惨劇が、こんなにも密接に私たちの生活と結びついている。

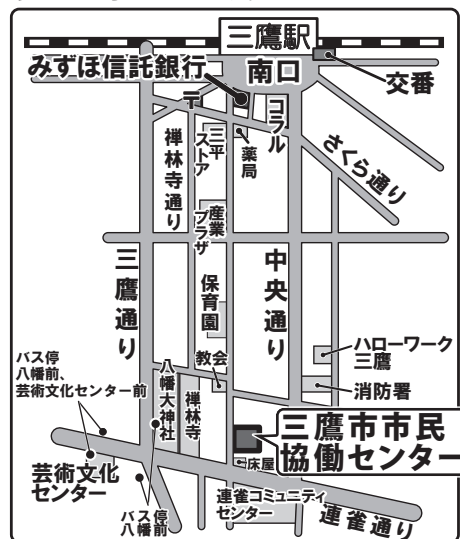
そして、3.11 後、イラクと日本はあらためて「内部被ばく」という共通点を持った。

私たち日本人は何をすべきなのか。現場から見えるイラクと日本の姿を報告します。

イラクの子どもたちと高遠さん



JR三鷹駅南口から「みずほ信託銀行」の右側の細い道に入り、まっすぐ15分ほど歩くと左手にあります。



3・11の後、高遠菜穂子さんは、いち早く福島への支援に入りました

彼女は今も、福島とイラクとで、活動しています

たくさんの仲間が、福島への支援にかかわり始めました
高遠菜穂子さんの報告を聞き、現地に行けない人も含めて、それぞれができることを考えるチャンスにしましょう

大義なきイラク戦争に、日本の私たちはどう責任があるのか

福島第一原発事故で被害をこうむった福島の人々—— 農業・畜産業・漁業などの生活基盤を破壊された人々、そして子どもたち—— に、私たちは、どう責任を取れるのか

首都圏にいる私たちが、地方に対して基地や原発を押し付けてきた結果、何が起きているのかを伝え続けたいと思います

高遠菜穂子さんのプロフィール

高遠菜穂子（たかとお・なほこ）さん

イラク支援ボランティア。1970年1月14日北海道千歳市出身。

麗澤（れいたく）大学外国語学部英語学科卒。

卒業後、東京で1年間の会社員生活。退職後、アメリカ黒人解放運動の

田尻成芳（たじりせいほう）氏の元を訪れ、生き方を学ぶ。24歳の

時に地元でカラオケボックスを開業。30歳を機に仕事を辞め、インド

のマザーテレサの施設や孤児院、タイ、カンボジアのエイズホス

ピスでボランティアに専念する生活をスタート。2003年3月にイ

ラク戦争が勃発し、ブッシュ大統領の「大規模戦闘終結宣言」が発表された5月1日にイ

ラクに初入国。NGOと共に病院調査、医薬品運搬、学校再建などを行う。後半は路上生活

する子どもたちの自立支援に取り組み始める。2004年4月、4回目のイラク入国の際にファ

ルージャ近郊で地元の抵抗勢力に拘束される。同年8月より隣国ヨルダンからイラク支援を

再開し、路上生活の子どもたちに「子ども自立支援プロジェクト」として就職斡旋と職業訓

練プログラムの基盤作りを完了させた。現在は、難民・国内避難民のサポート、医療支援な

どのプロジェクトをイラク人と共にすすめている。「イラク戦争の検証を求めるネットワー

ク」呼びかけ人。



高遠菜穂子のイラク希望ダイアリー <http://iraqhope.exblog.jp/>

twitter <http://twitter.com/NahokoTakato>